

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

第 **204** 回 定時株主総会

2026年 6 月26日 (金)

 古河電気工業株式会社

1. 開会

2. 報告事項の報告

3. 議案の上程

4. 質疑応答

5. 議案の採決

6. 閉会

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

議決権数の報告

第1号

第204期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）
事業報告、連結計算書類ならびに
会計監査人および監査等委員会の
連結計算書類の監査結果報告の件

第2号

第204期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）
計算書類報告の件

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

当期における 主な取組みとその成果

当期における主な取組みとその成果

当期の主な取組み

① 資本効率重視による
既存事業の収益最大化

② 開発力・提案力の強化
による新事業創出に
向けた基盤整備

③ ESG経営の基盤強化



当期における主な取組みとその成果

当期の業績（売上）

- 光ファイバケーブル等のデータセンタ関連製品の増収
- ワイヤハーネス等の自動車部品での増収
- 銅地金価格の高騰の影響

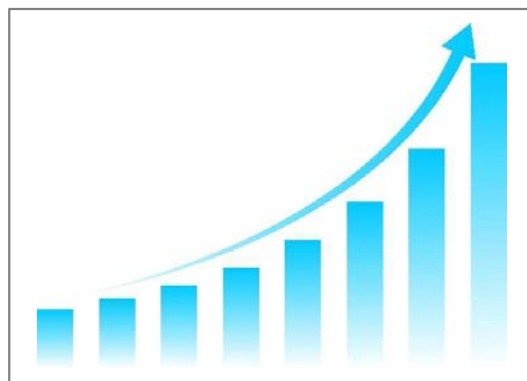


グループ全体の売上は増加

当期における主な取組みとその成果

当期の業績（損益）

- 売上増による利益押上げ
- 生産性改善や販売価格の適正化に取り組む

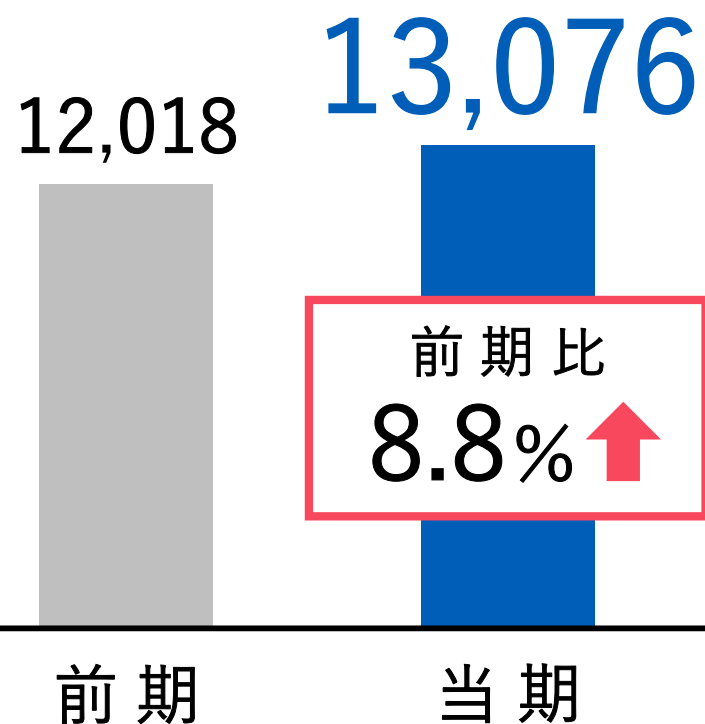


増益

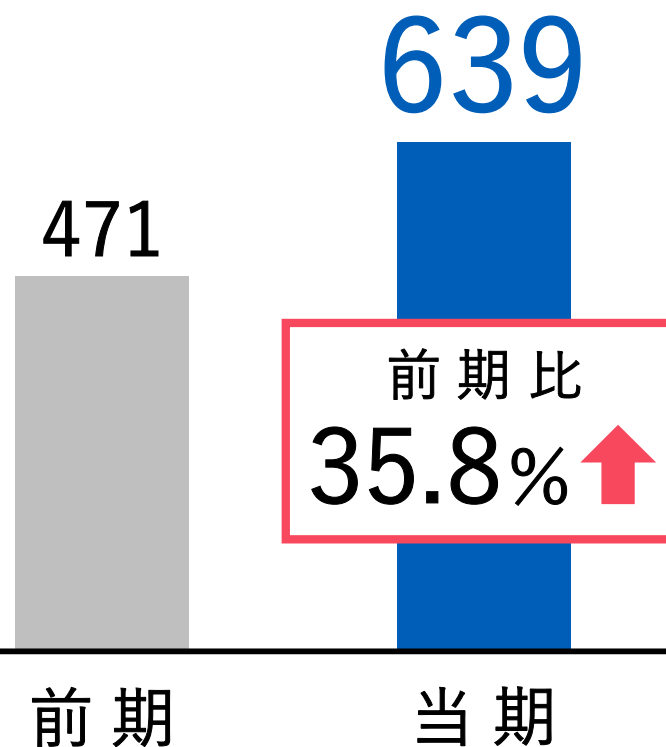
当期の業績について

連結損益計算書（単位：億円）

連結売上高



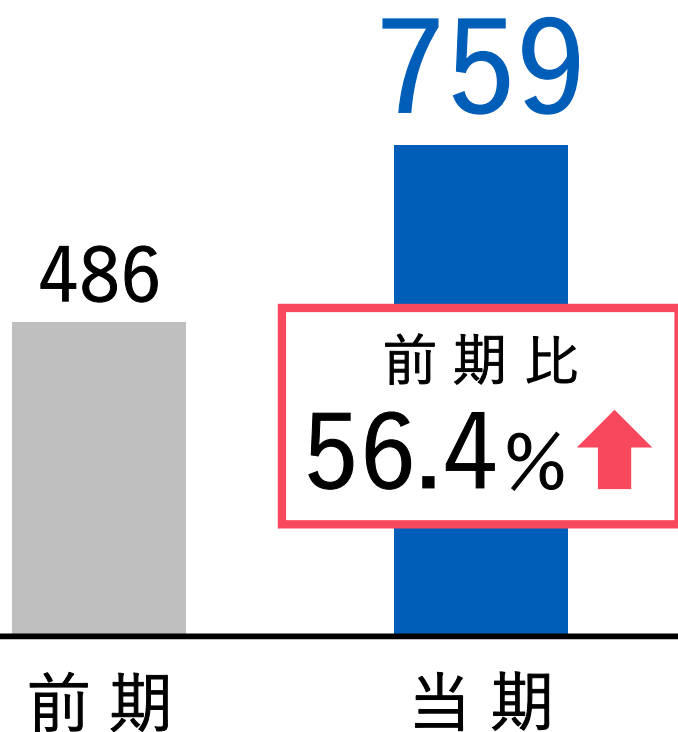
連結営業利益



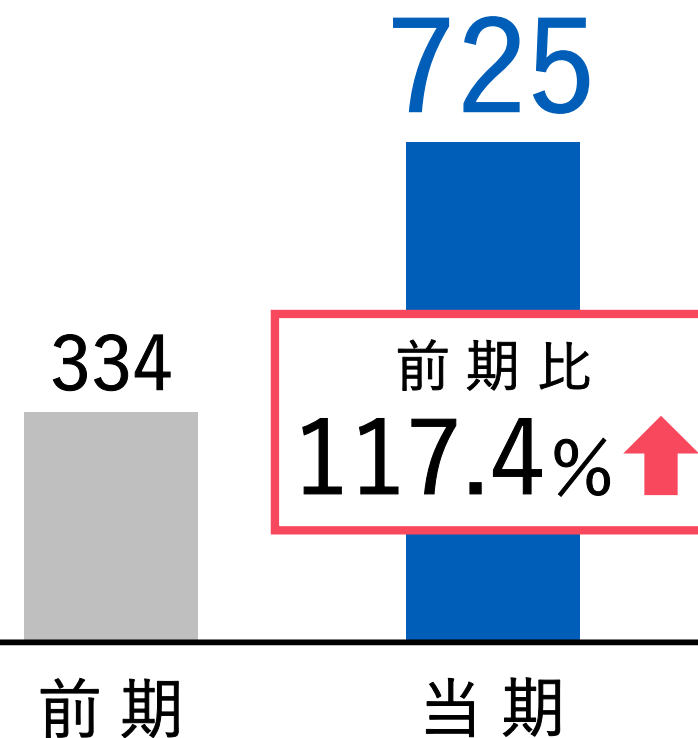
当期の業績について

連結損益計算書（単位：億円）

連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結および単体の 貸借対照表および損益計算書

- ▶ 当社ウェブサイトに掲載の招集ご通知に記載

連結および単体の 株主資本等変動計算書および注記表

- ▶ 当社ウェブサイトに掲載

All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

中期経営計画2022-2025（25中計） 「Road to Vision 2030 – 変革と挑戦 –」 における主な取組みとその成果

中期経営計画2022-2025（25中計）

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

主な取組み

① 資本効率重視による
既存事業の収益最大化

② 開発力・提案力の強化
による新事業創出に
向けた基盤整備

③ ESG経営の基盤強化



中期経営計画2022-2025（25中計）

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

- 成長性と収益性の指標を用いて事業の位置付けを可視化
- 経営資源を成長が見込まれる分野に集中して配分
 - ▶ 資本効率性を意識した経営管理を推進
 - ▶ 事業ポートフォリオの見直しを図る



中期経営計画2022-2025（25中計）

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

■ 事業ポートフォリオ最適化

- ▶ 光ファイバ・ケーブル事業の運営体制の刷新
- ▶ メタル電線事業の再編
- ▶ 光コネクタや高速光変調器に強みを持つ会社の子会社化

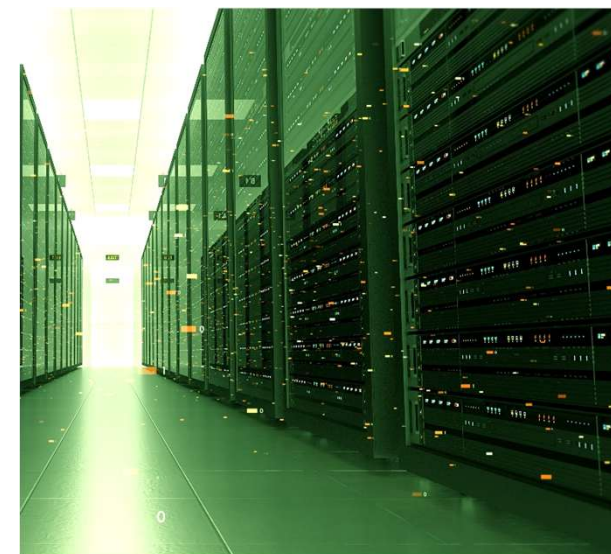


戦略投資枠の活用による積極的な
M & A や資本提携などを実施

中期経営計画2022-2025（25中計）

① 資本効率重視による既存事業の収益最大化

- データセンタ関連需要を確実に取り込む
 - ▶ 高速大容量・低遅延通信等の実現に貢献する製品群、放熱・冷却製品群の製造能力を増強
 - ▶ 高付加価値製品の開発や増産、拡販を通じた収益基盤の拡大
- 販売価格の適正化・業務プロセス改善の取組みによる原価低減を図る



中期経営計画2022-2025（25中計）

② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備

- 素材力を核として長年培ってきた
「メタル」「ポリマー」「フォトニクス」
「高周波」の4つのコア技術を活用
- 課題解決を起点とした製品・サービスの
開発・提供



新たな社会課題解決型事業創出に
向けた基盤整備を図る

中期経営計画2022-2025（25中計）

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備

- 情報領域において、
光電融合を実現する
高機能なフォトニクス製品を開発



オール光ネットワークと
高効率エネルギー社会の実現を図る

中期経営計画2022-2025（25中計）

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

② 開発力・提案力の強化による新事業創出に向けた基盤整備

- 自社技術に基づく知見を生かし国内外のパートナー企業と共創
- 部門横断的な事業開発を促進
 - ▶ 「ライフサイエンス」「レーザ応用」「超電導」「グリーンLPガス」に注力



事業化に向けた取組みを加速

中期経営計画2022-2025（25中計）

③ E S G 経営の基盤強化

「E」 環境に関する取組み

- 「古河電工グループ環境目標2030」
の各目標の達成を図る



再生可能エネルギー比率の向上への
取組みなどを実施

中期経営計画2022-2025（25中計）

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

③ E S G 経営の基盤強化

「S」 社会に関する取組み

■ 古河電工グループ パーパス

「『つづく』をつくり、世界を明るくする。」を2024年3月に制定

- ▶ 従業員の理解促進、共感の醸成を目的とした活動を実施



従業員エンゲージメントの向上を推進

中期経営計画2022-2025（25中計）

③ E S G 経営の基盤強化

「G」ガバナンスに関する取組み

- コーポレートガバナンスの一層の充実を推進
 - ▶ 2025年6月に
監査等委員会設置会社へ移行
- 人権デューディリジェンスの仕組みを構築
 - ▶ 新たに特定したリスクを低減させる
施策に取り組む



中期経営計画2022-2025（25中計）

財務目標値（2025年度）

	目標値	実績値
ROIC（税引後）	6%以上	12.2%
ROE	11%以上	19.1%
Net D/Eレシオ	0.8以下	0.59
自己資本比率	35%以上	39.1%
連結売上高	1.1兆円以上	1.3兆円
連結営業利益	580億円以上	639億円
親会社株主に帰属する当期純利益	370億円以上	725億円

全て達成

中期経営計画2022-2025（25中計）

サステナビリティ目標値（2025年度）

概ね達成

- 従業員エンゲージメントスコア
→ パーパスの浸透活動を通じた組織風土の醸成
- 管理職層に占める女性比率
→ 管理職層の労働環境改善・教育機会の提供等の取組み

引き続き実施

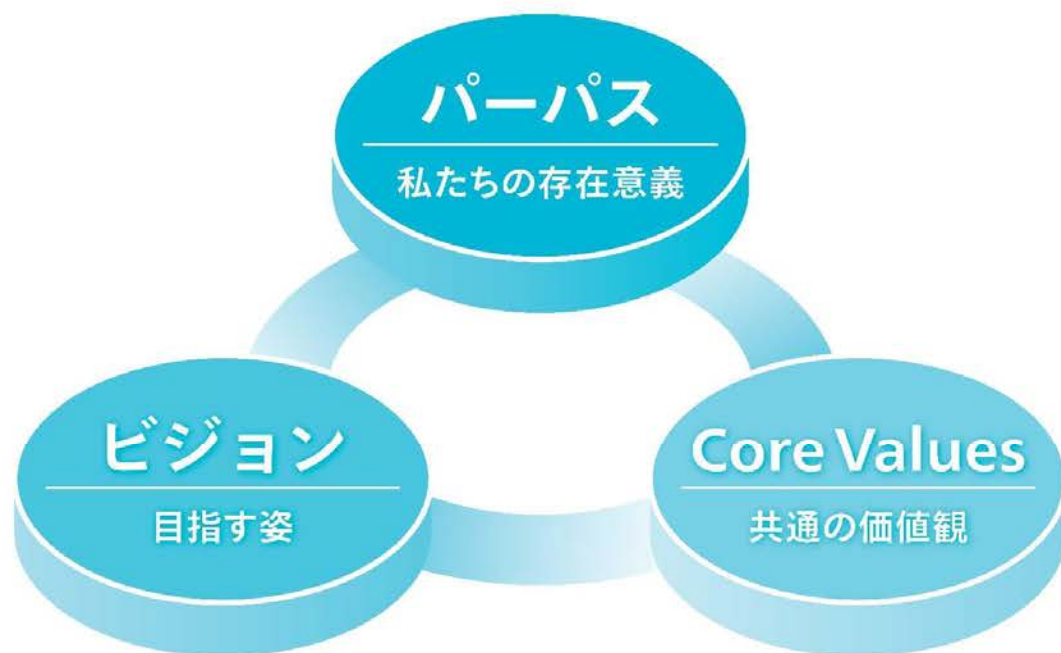
All to brighten the world

FURUKAWA
ELECTRIC

対処すべき課題

対処すべき課題

古河電工グループ ビジョン2030



私たちの存在意義

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、世界を明るくする。

いつまでに、どこを目指すのか？ 目指す姿

古河電工グループ ビジョン2030

「地球環境を守り」「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、
情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤を創る。

どのように行動するのか？ 共通の価値観

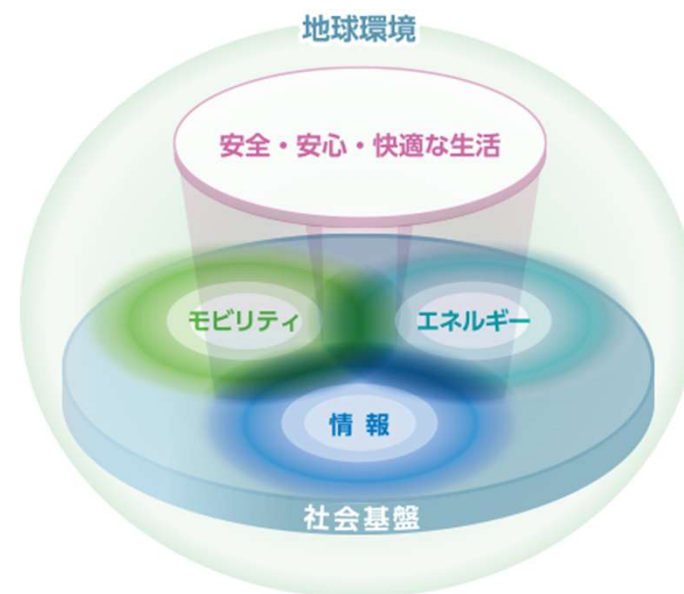
Core Values

1. 正々堂々 2. 革新 3. 本質追究 4. 主体・迅速 5. 共創

対処すべき課題

古河電工グループ ビジョン2030

- 情報/エネルギー/モビリティの各領域およびこれらの融合領域
- 新領域において、これまでにない新たな事業の創出



社会課題の解決を目指す

対処すべき課題

All to brighten the world
FURUKAWA
ELECTRIC

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、世界を明るくする。

日々の当たり前の
暮らしが、安心・
快適につづくこと。

今日よりも
豊かな明日へ、
社会の進歩・発展が
つづくこと。

人と地球の共生が、
いつまでも幸せに
つづくこと。

経営上の重要課題

外部環境

- AIの急速な拡大・普及
- 脱炭素社会への移行
- インフレ、人手不足
- 地政学リスクの高まり

古河電工グループの特徴

- 社会課題解決に資する幅広い事業・製品群
- 4つのコア技術
- 特定市場に限定されない開発力・提案力
- グローバルに展開する生産拠点、従業員

社会課題解決による 価値創造

情報をベースとした
社会基盤の創出

社会課題解決に資する
新しい事業への挑戦

価値創造を持続可能にする 経営基盤確立

事業・製品
ポートフォリオの
最適化

労働生産性の
向上

人的資本の
最大化

ガバナンスの強化、
リスク耐性の向上

古河電工グループ ビジョン2030 実現

2030年度
財務到達水準
営業利益: 2,500億円
ROE: 20%
ROIC: 15%

中長期的な企業価値向上

対処すべき課題

情報をベースとした社会基盤の創出

増大するデータ通信量、電力消費量、高発熱等への対処が課題

- 「メタル」「ポリマー」「フォトニクス」「高周波」の4つのコア技術を核とした技術力
 - ▶ 大容量化・高密度化、高発熱化に対応する高機能製品を幅広く提供



製造能力拡大、新技術や新製品の開発を
継続して進める

対処すべき課題

情報をベースとした社会基盤の創出

- 増大する電力需要や
再生可能エネルギーの広域活用、
電力インフラの強靱化などの社会要請に対応



直流高圧ケーブルの製造体制構築を推進

対処すべき課題

社会課題解決に資する新しい事業への挑戦

社会構造の変化や技術革新などによって様々な社会課題が発生

- 社会課題の解決を起点とした製品・サービスの開発・提供
 - ▶ 新事業の創出に向けた基盤整備を図る



4つのコア技術を核にした技術力、
特定市場に限定されない開発力・提案力を
活用した部門横断的な事業開発を実施

社会課題解決に資する新しい事業への挑戦

- パートナーとの共創などによる
事業機会の獲得、収益性のある
ビジネスモデルの検証
 - ▶ 新事業の規模を拡大
- 新たな事業となりうる
テーマへの投資を実施
 - ▶ 育成や支援の取組みも進める



対処すべき課題

事業・製品ポートフォリオの最適化

収益性・成長性の強化と全社視点での経営資源の最適配分が課題

- 経営資源を集中し、事業ポートフォリオ最適化に向けた検証を不断に続ける
- 新製品の創出と低収益化・不採算化した製品の縮小・撤退を実施

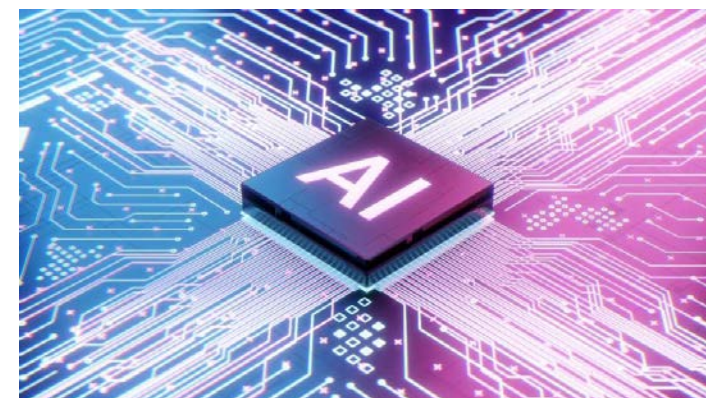


最も良好な状態を維持し、
収益の最大化を図る

対処すべき課題

労働生産性の向上

- 新工場の立ち上げや既存設備の更新、AIを活用した業務プロセスの改善
 - ▶ ものづくり・営業・間接業務を進化させる取組みを推進



従業員個々人と組織全体の
労働生産性を高める

人的資本の最大化

- 事業戦略と人的資本戦略を
一体で設計
- 人材育成および必要な人員の
確保・配置を実施
 - ▶ 人的資本経営を強化



従業員への投資を事業における成果に
結びつけ、持続的な成長を図る

対処すべき課題

ガバナンスの強化・リスク耐性の向上

- リスクの発生可能性および影響度を把握したうえで意思決定を行う体制を設計し運用



経営の意思決定のスピードの向上、
ガバナンスの高度化やリスクマネジメント・
コンプライアンスの向上との両立を図る

経営上の重要課題に対し、
それぞれ成果指標を定めて各種取組みを実施

重要課題の解決を図る

2030年度財務到達水準

連結営業利益 2,500億円

ROE 20%

ROIC 15%

各種施策を着実に実行



企業価値の向上を図る